

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018 年 11 月 3日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	The University of Melbourne
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界: ITベンチャー)		✓ 6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

近年世界ランキングで東大の上位に伸びてきた、オーストラリアトップの大学。オーストラリアの一大都市であるメルボルンは、娯楽の町としてスポーツや芸術、コーヒーやワインなどが有名で、“The most liveable city in the world”として世界各国から多くの観光客が集まっている。

留学した動機

Marketing や Management に関してより実践的な学問を学びたく、同時に英語もある程度はできるようになっておきたいという思いから留学を決意。学生ビザで就業が可能なオーストラリアは、学問も就業体験も英語環境で同時にできるのでは、と魅力を感じ、この大学を選んだ。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017	年	学部3	年生の	S1	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学					
③留学期間等:	2017	年	7	月~	2018	年 6
	学部3	年時に出発				
④留学後の授業履修:	2018	年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018	年	学部4	年生の	7	月頃に 行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				36	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				15	単位
	留学後の取得(予定)単位				29	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015	年	4	月入学	2019	年 9
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:			4	年	6ヶ月間	
⑨留学時期を決めた理由:						
交換留学自体がだいたい3年の秋学期から行く人が多く、募集もその時期にまとまっていたのでそうした。ただ、オーストラリアが7月から丸ごと1年間あって、3年時のS2とか4年次のS2に参加できないことは、もう少し考慮に入れていれば良かったと思う。						

留学準備

① 留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

Study Planを提出する際、取ってみたい授業は少しでも興味があれば全てリストアップするべき。後々気分が変わって履修申請するのは、なかなか時間がかかって面倒くさかった。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

オンラインでできるから楽。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

歯医者にだけ行っておいた。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

VISAについているBupaと、学校に指定されたもののみ。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

経済学部は単位換算に関してとても厳しいので、しっかり確認して覚悟の上で履修を選ぶべき。

⑥ 語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

Aussie Englishは本当に苦労したが、事前に準備したからといってどうにかなるものでもないと思うので、現地で慣れるまで頑張るのがいいと思う。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

授業のPrerequisitesが結構厳しく、レベル2、3の授業を取るには、Home Institutionでの履修履歴をしっかり提出して教授からOKをもらう必要がある。そのため、履修に必要そうなシラバスや成績表は日本にいるうちに確認をとって準備しておくべき。

学習・研究について

① 履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Agricultural and Resource Economics	3	●	Principles of Marketing	3	
Business in the Global Economy	3	●	Product Management	3	●
Chinese7	3		Strategic Management	3	●
Going Places	3	●			
Organisational Behaviour	3	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

ビジネス系の授業はTutorialに毎週異なるケーススタディが用意され、しっかり準備していかなければならず、とても大変だった。エッセイも東大の何倍も厳しく採点され、最初は成績を取ることにとても苦労した。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

週3時間の授業を4つまで履修できる。授業外での課題がとても多いため、時間があれば図書館に行って勉強する日々を送った。

④学習・研究面でのアドバイス

英語の論文の書き方に慣れていない人は、添削してもらったり書き方の講習に参加したりと、積極的に差を埋めていかないと、本当に大変だと思う。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

Aussie Englishは本当に大変。オーストラリア生まれオーストラリア育ちのご年配の教授の授業は、全く違う言語を聞いているかのような錯覚に陥る。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

家賃はとても高い。シェアハウスでも月7、8万は最低ライン。FlatMatesというウェブサイトで自由にオーナーとマッチできるので、それで探していた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

町自体がとてもコンパクトにまとまっており、トラムも無料で乗れるし、食も世界各国の料理が大学近郊で手軽に食べれるが、外食は常に高い。JASSOの奨学金も少なめなので、金銭的にギリギリなら自炊をお勧めする。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はいいと思う。娯楽の町なので、週末の深夜は少し荒れる。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃8万、食費5万、生活費3万

・留学に要した費用総額とその内訳

旅行どれくらい行くかによると思うが、最低でも月15万ほどはかかる

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 月7万

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

日本語のチューターは不定期だがやっていた。毎週、大学のサークルみたいなところや、Meetupというサービスで見つけたメルボルン市民の不定期サッカーに参加していた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

論文の添削サービスはあった。全然英語ができない正規生の中国人とかもいるので、交換留学生に特別サービスとかはないと思う。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

学部ごとに図書館があり、施設はとても充実している。食堂もあるが、東大の学食ほど安くない。図書館はテスト前とかに関わらず人がたくさんおり、昼時は席がない。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

メリット: 留学での経験は純粋に企業側も評価してくれるし、スキル面でもリードできると思う
デメリット: 4年間卒業を狙う場合はどうしても本選考を逃す。シドニーキャリアフォーラムは規模が小さすぎて当てにならず、ボスキヤリも経済学部はA1の試験と被っている。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

オーストラリア人のライフスタイルへの憧れや慣れから、普通のいわゆる日本企業で働くのは個人的にはあり得ないと感じるようになった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

帰国時期がちょうど夏選考とかの申請期間だったりするので、早め早めに準備をしておくに越したことはない。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
<input checked="" type="checkbox"/>	5. 民間企業(企業名又は業界: ITベンチャー)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

キャリアとか学業とか色々進路を決めなくてはならず多感な時期である大学の終盤に1年間日本から離れて異文化に身を浸すことは、自らの価値観に大きな影響を与えたと感じる。

②留学後の予定

9月末にAセメが始まるまでに就活を終わらせ、Aセメ中は遅れている単位を取り戻すためにたくさん授業を取っている。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

オーストラリアはカリキュラムが日本のそれと合わないの、日本の他の大学からの留学生は2月から11月の2セメスター留学をしていた。7月始まりだと間に3ヶ月半の夏休みがあり、それも使い方によってはとても有意義な時間になるが、長いと感じる人は時期を考えるべきだと思います！

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

FlatMates、Meetup

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

特にありません

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年6月25日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	<input checked="" type="checkbox"/> 5. 民間企業(業界: 未定)	<input checked="" type="checkbox"/>	6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

オーストラリアのビクトリア州にある大学。

留学した動機

大学生生活を進める中で自分自身、視野が狭くなっているような感覚があった。それと同時に日本の外のことや、外部から見た日本について何も知らないということに思い至り、留学をしたいと考えるようになった。また国際化がさらに加速する今後は留学先での経験や高い英語力は役に立つと考えた。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部4	年生の	S1	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	7月~	2018年	6月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	修士1	年生の	7月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			68	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			6	単位
	留学後の取得(予定)単位			74	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

留学することを考え始めたのが学部三年の時だったので、時期的に三年時に行くのが不可能だったので四年生になってから行くことにした。当初から大学院に進学することを考えていたので就活との兼ね合いを考える必要がなく、四年時に留学しても大きな問題はないと考えた。

留学の準備					
①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)					
日本の教育機関とは異なり、すぐに連絡が返ってこなかったりいい加減なこともあるので、余裕をもって手続きすると良い。メルボルン大学の場合は手続きをまとめた書類が送られてきたので、それにしたがって行うだけでストレスはなかった。					
②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)					
フルタイムの学生ビザを取得した。オーストラリアの政府の機関に申請をするが、ネット上で調べた限りでは、申請フォームに不備がある場合はかなり時間がかかることがあるとのことだったので早め早めに準備を開始した。一週間もかからないうちにビザが下りたので思ったより時間がかからなかったが何があるかわからないので早めに申請した方がいいと思う。					
③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)					
大学の健康診断以上のことはしていない。海外の歯医者は保険がきかないので虫歯の処理だけはしていった。また、海外の薬は体に合わない場合もあると聞いていたので一応風邪薬などは持参した。					
④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)					
東大とオーストラリア政府から入るよう指示を受けたもののみ加入した。特別な事情がない限りそれで十分だとおもう。					
⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)					
留学手続きを行った。卒業論文はもともと書かない予定だったので他には特にしていない。					
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)					
交換留学に申し込むときに必要だったTOEFLの勉強は2016年の夏に一月ほど行った。10月に二度ほど受験して85点くらいだったのでそのまま申請用に使った。それ以降は留学先で向上させることが出来ると考えて特に何もしていない。もう少し勉強しておいた方がよかった。					
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど					
日本で買えるほとんどのものは(和食を含め)メルボルンで買えるので持参する必要はない。ただメルボルンには和書を多く扱う本屋が無いので必要な日本の本などがあれば持参した方がいいかもしれない。					
学習・研究について					
①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合) ※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。					
授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Agricultural Economics	12.5	●	Australia Now	12.5	●
Micro Economics	12.5		Globalization and World Economics	12.5	
Macro Economics	12.5	●			
Music Psychology	12.5				
Music and Health	12.5				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)
各授業に対して事前に読んでから行くべき記事や論文が指定されていて、それを調べながら読むことが予習になっていた。授業は各科目が講義とチュートリアル(少人数ディスカッションなどをする)から成っていて日本よりも一つの科目にかかる時間は長いと感じた。復習は試験前などにまとめてしていた。
③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など
一学期あたり3~4科目履修していた。周囲の学生たちもそれくらいだった。一つの科目の負担が大きいので、3科目でもかなり忙しかった。授業は一つの科目につき1週間で講義2時間チュートリアル1時間くらいが普通だと思うが、理系の科目ではたまに週に5、6時間の講義があるものもあるのできちんとシラバスで確認した方がよい。僕は特に初めの学期は大量のリーディングを素早く処理できなかったので空き時間はたいてい家や図書館で勉強していた。
④学習・研究面でのアドバイス
他の大学のことはわからないが、メルボルン大学は交換留学生でも受講してよい科目がかなり多いので、日本での専攻にこだわらず気になる科目を履修すればいいと思う。シラバスを読んでわからない点があれば担当教員に直接メールしたり会いに行ったりするとよい。
⑤語学面での苦労・アドバイス等
予習段階でのリーディングが遅かったので大変だった。講義は教員が話すだけなのでわかりやすかったが、チュートリアルでは学生同士の議論についていくのがやっとだった。最後まで現地の学生と同じレベルで話すことはできなかったので英語の奥深さを思い知った。意見の内容そのものは東大生ならレベルが高いように思うので臆せず授業参加するとよい。
生活について
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
大学のホームページで紹介されていたアパートに住んでいた。個室なので家賃は高かったが忙しい時は集中して勉強できたのでよかった。アパートは学生限定でイベントなどもあったので寂しくはなかった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
夜と昼間の温度差が激しいがトータルしていえば過ごしやすい気候だったと思う。大学は市の中心部のすぐ近くにありアクセス、治安ともよかった。市内にはトラムという路面電車が走っていて、郊外に行かない限りは無料だったのでよく利用した。食事は外食が高いので主に自炊していた。面倒な時はUBER EATSで家までデリバリーしてもらっていた。初めはキャッシュパスポートという日本のシステムを使ってお金を管理していた。その後銀行口座を現地で作ったのでそっちに移行した。カード社会なのでクレジットカードや現地のデビットカードは持っていた方がよい。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安は良いので夜に外出する機会があっても特に気を付けることはなかった。医療機関は風邪で数回受診した程度だったが、市内には日本語で対応してくれるところもあるので心配しなくてよいと感じた。歯科は保険がきかないということで出発前に歯科検診と虫歯の治療をしたが滞在中にどうしても痛くなってしまい受診したら異常に高かったので出発前にもっと長期的に治療しなかったことを後悔した。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
・毎月の生活費とその内訳
食費6万円+交際費2万円+家賃12万=20万

・留学に要した費用総額とその内訳	
生活費20万 * 11か月 + 航空券片道6万 * 2 = 230万円ほど	
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)	
東京大学から紹介されたJASSOの奨学金、毎月7万円	
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)	
もともと日本で卓球をしていたので、メルボルンでも大学の卓球部に所属していた。週2, 3回の練習に参加し、それとは別に有志が集まって週末などに地元の体育館で学外の方も試合などしていた。1学期目が終わった後から現地のレストランで働き始めて帰国まで続けた。日本よりも時給がいいので効率よく貯金することが出来たし、ローカルな人たちと接するのにも英語を使う良い機会になるのでオススメ。	
派遣先大学の環境について	
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)	
留学生のための窓口が設置されていたのでサポート体制は整っていると思う。特にお世話になることはなかった。	
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)	
図書館は試験前はかなり長時間あいているので助かった。24時間空いているものもあって学習環境が充実していると感じた。学内には体育館やプール、トレーニングジムなどがあり、一学期単位で会費を払って会員になることで自由に利用できる。食堂は日本の大学と異なり特に安いわけではないので、あまり利用しなかった。	
留学と就職活動について	
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど	
行っていない。	
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
特にない。	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
特にない。	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
<input type="checkbox"/>	1. 研究職
<input type="checkbox"/>	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
<input type="checkbox"/>	3. 公的機関(機関名:)
<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(企業名又は業界:)
<input type="checkbox"/>	6. 起業(分野:)
<input type="checkbox"/>	7. その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

単純に英語力が伸びた気がする。授業では新しい論文を読む機会が多かったので、今まで主に教科書を使う学習を経験してきた僕にとっては新しい学ぶことの面白さを認識できる場となった。また何事においても受動的に相手の意見を吸収するだけでなく、自分の考えを発信していくことの重要性を身に染みて実感した。

②留学後の予定

大学院に進学したのち就職する予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

少しでも留学に興味がある方はきちんと調べて行くか行かないか決めた方がいいと思う。就職してしまうと海外で学ぶ機会を簡単に得ることはできないと思う。準備は早めにしないと学内の選考段階でかなり焦ることになるので気を付けた方がいい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にこれといったものはないがyoutubeやpodcast、Stan(オーストラリアの番組配信アプリ)などで動画やドラマ、映画などをリスニング代わりに視聴していた。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form
(for programs from one semester to a year)


Date: 09/30/2018

Faculty/Graduate School at UTokyo:	College of Arts and Sciences	Year at the time of Study Abroad	B3
Program Attended:	USTEP (Outbound)	Host University:	The University of Melbourne
Occupation after graduation (intended):			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. Research		
<input type="checkbox"/>	2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant)		
<input type="checkbox"/>	3. Civil Service		
<input type="checkbox"/>	4. NPO		
<input checked="" type="checkbox"/>	5. Private sector (Type of industry: consulting)		
<input type="checkbox"/>	6. Entrepreneurship		
<input type="checkbox"/>	7. Others ()		

Outline of the receiving institution overseas								
The University of Melbourne is one of the oldest and top universities in Australia. It is located at Carlton, Melbourne, which is near the Melbourne CBD and the south of Australia, so the weather is not as hot as in Queensland. Unlike the University of Tokyo, University of Melbourne has high percentage of international students, especially Asians, so the system is actually international students friendly.								
Reason why you decided to participate								
One of the reasons why I chose University of Melbourne is that, Melbourne, is a multicultural city with many immigrants with various cultural backgrounds and international students from all over the world. It was selected as the most livable city in the recent years. As a PEAK student at the University of Tokyo, I would always love to participate this kind of Go Global program as I want to be a qualified global citizen and enjoy experiencing different cultures and environments. Australia itself is a wonderful country to be explored and travelled as well. Apart from that, the host university is one of the top university in the world, with high reputation of teaching quality and diversified student background.								
Period of Study etc.								
(1) Academic status before the program:	Completed the	A2	semester of the	3rd	Year of	Undergraduate	study in year	2018
(2) Status during the program:	Study Abroad [留学]							
(3) Duration etc.:	From (Month) (Year)	February	2018	to (Month) (Year)	June	2018		
	Departing in	3rd	year of	Undergraduate	study in year	2018		
(4) Registering for classes on return:	Re-registered for classes from	A1	semester of the	4th	Year of	Undergraduate	study in year	2018
(5) Period of job hunting:	Planning to start	in the month of	August	2019	of the	4th	Year of	
	Undergraduate	study in year	2019					
(6) Number of credits earned at UTokyo:	Number of credits earned before program:					34	credits	
	Number of credits earned during the program which will be processed for transfer:					2	credits	
	Number of (expected) credits after program:					42	credits	
(7) Enrolled/ Expected timing of graduation:	Enrolled: (Month) (Year)	September	2015	Graduated/completed: (Month) (Year)	July	2018		
(8) Time taken from enrollment to graduating/completion:	4 years		0 months					
(9) Reason for choosing period to study abroad:								
I think 3rd year is the most appropriate period of time to study abroad as I entered senior division and settled down the schedules.								

Preparation for the program					
(1) Application process (please give any advice on dealing with the application process)					
Prepare the IELTS or TOEFL or others language proficiency test and the recommendation letters from professors before the application. Check carefully about the modules of host university and the expenses in the host countries.					
(2) Visa application (type of visa, where to apply, processing time, any advice on visa application)					
The type of visa is student visa and it can be applied online. The processing time is very fast so I got it within a week after the submission of the application with the documents sent by the host university.					
(3) Medical check-ups (health check-ups before departure, inoculations, etc.)					
Australia is generally safe so it is not necessary to have Medical check-ups. There is health insurance (BUPA) during the period of study abroad so do not need to worry about the medical problems.					
(4) Insurance (information about insurance for travel/studying abroad purchased)					
Apart from the insurance which is required by the University of Tokyo, the Australian government requires all the international students purchase national health insurance during studying abroad. The purchase of national health insurance is required for the student visa application.					
(5) Procedures required by your Faculty/Graduate School (any information about course registration, credits, exams, submission of dissertations etc)					
The host university will send emails to inform the incoming exchange students about the information of the study there including orientation, course registration and accomodation, so just need to follow the instructions. However, unlike the University of Tokyo, course registration starts before the semester starts, so please check the email and keep the date of registration in mind.					
(6) Language preparation (language level before the program, lessons etc.)					
All the lessons are taught in English except the foreign languages courses, so have to be prepared.					
(7) Items which should be taken with you from Japan and any other advice on things which should be done before leaving Japan.					
There are a lot of Asian shops in the Melbourne CBD (which is near the campus) so a lot of Japanese import can be bought in Melbourne.					
Information on the academic/research program					
(1) Copy of list of subjects taken (if classes were taken)					
※ Please mark with ● all subjects which you are processing to transfer credits to the University of Tokyo					
subject	number of credits	credit transfer	subject	number of credits	credit transfer
French 1	12.5	●			
Mapping environments	12.5				
Introductory microeconomics	12.5	●			
Understanding the built environment	12.5				
(2) Outline of the program (Style of the lessons/preparation study/review study, thing which left an impression on you, etc.)					
The style of the lessons are quite different from what I had at UTokyo. There are two types of class, tutorials and lectures, and the number of class hours for one class is much more than that at UTokyo. Attendance is not required for the lectures, and there are videos of the lessons online, but attendance is required for the tutorials.					
(3) Number of subjects/credits per semester, number of hours of study/research time in a week (including class hours and study out-of-class hours)					
Maximum four subjects per semester, number of hours of study depends on the type of class but usually one class has 4 to 5 class hours per week. Plus the study out-of-class hours, usually students take around 25 hours of study in a week.					

(4) Advice on aspects of academic/research work
As the teaching styles and systems are different from UTokyo, I suggest to do a thorough research on the classes before course registration.
(5) Problems experienced with language issues, advice concerning language, etc.
As I am able to understand Chinese, basically no. However, for Japanese students, there may be a problem that there are too many Chinese students in the classes and they might discuss in only Chinese.
Aspects of life
(1) Accommodation (Type (home-stay, room-sharing etc.), cost, atmosphere/appearance of accommodation, how you found it, etc.)
Room-sharing. I have friends at Melbourne and they have one more empty room at their house so I just live there. The rent in Melbourne city is extremely expensive and the dormitory provided by the university is expensive too, so it is better to find a place before arrival.
(2) Living environment (such as climate, environment around the institution, transport facilities, food, managing your money (overseas money transfer, credit cards))
Weather in Melbourne is basically four seasons in a day. The change in temperature is rapid so just bring all the clothes there. The campus is nice, close to the city center and transport facilities is basically tram and metro. For people living in suburb they might need cars. As there are a lot of Asians in Melbourne, it is easy to find authentic Japanese food in the city center, and the bank procedure is convenient for international students too.
(3) Aspects of risk and safety management (safety of local region, condition of medical facilities, any action taken in maintaining your mental and physical health, etc.)
Melbourne is generally safe, but do not go out alone during midnight as there are crimes such as rape and robbery reported recently when students go out alone during midnight. Do not be drunk alone. Reservation is always required in clinic.
(4) Details of expenses (breakdown of costs, such as airfare, program fees, cost of required books, rent, food, travel cost, money spent on entertainment)
• Monthly living cost and its breakdown
Rent 1200 AUD, Food 300 AUD, Travel cost 120 AUD, entertainment 80 AUD, so total is around 1700 AUD
• Total cost spent on studying abroad and its breakdown
Airfare is around 10 man yen, and total cost in Melbourne is around 10,200 AUD
(5) Financial aid (if you were receiving financial aid/scholarships, please give the name of the source of the aid, amount, and how you found it, etc.)
The Fung scholarships, which is 50,000 yen per month
(6) Activities other than academic/research work (sports, cultural, volunteer/internship, weekend activities, etc.)
I have joined Melbourne University hockey club and some tours and road trips in Australia.
Environment of the receiving institution
(1) Support facilities for students taking part in the program (such as language, academic, living support mechanism and counseling services)
There is student consulting services and tutors in each class providing academic assistance.
(2) Facilities (libraries, sports facilities, cafeteria, IT equipment and facilities, etc.)
There are several libraries in the campus and sports facilities are fully equipped. IT equipment depends on the faculties, for example, the computers in architecture buildings are installed with some professional softwares such as AutoCAD.

Studying abroad and job hunting	
(1) (those that have job hunted) Impact that the your study abroad had on job hunting, merit and demerit	
I did not plan to have job hunting after graduation so it did not really impact.	
(2) (those who will be starting job hunting) How the study abroad has impacted your thoughts towards employment	
I think I can just take more time to think about what I really want to do. Australians are much more chilled about job hunting than east Asians.	
(3) Actions towards job hunting while studying abroad (if any)	
(4) If you have succeeded in finding a job, please inform us, if agreeable, as much as possible about your job	
	1. Research
	2. Specialist (Medical • Judiciary • Accountant) (position:)
	3. Civil Service (name of institution:)
	4. NPO (name of organization and field:)
	5. Private sector (name of company and industry:)
	6. Entrepreneurship (field:)
	7. Others ()
Looking back over the program	
(1) The significance of the program and how you have developed by taking part in it, any other impression from having studied abroad	
Being the sport and art capital of Australia, Melbourne has its unique attractive points and I could feel that the environment does influence the human and communities. The nice weather in Melbourne and the best coffee in the world provide a nice beginning of a day, everyone is chilled and there are many students relaxing on grass in the campus. The peer pressure there is not high and everyone is nice and friendly. I was kind of having a long vacation there and all the stress accumulated before was gone. In fact, I feel that I become energetic and motivated after returning to Japan, ready to face the challenges.	
(2) Your plans having studied abroad	
Apart from study, I planned to travel the major tourist attractions in Australia and participated some local activities. Looking back over the study abroad period, I have travelled Tasmania, Sydney, the Great Ocean road, Uluru, Queensland with the other exchange students and felt the wild side of Australia. I also joined some sport activities at the universities, meeting local people and hanging out together.	
(3) Any messages or advice for future participants	
Save more money before going abroad as Australia is a really expensive place.	
Miscellaneous	
(1) Websites or publications which were useful while preparing for or during your time overseas	
the host universities website such as myunimelb.	
(2) Please submit any photographs which may be used on the University of Tokyo websites or publications.	
	

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年 11月 2日

東京大学での所属学部・研究科等:	経済学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	交換留学	派遣先大学:	メルボルン大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:新聞社)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

オーストラリアで最も評価の高い大学の一つ。アジア(特に中国、インド、マレーシア、シンガポール、韓国)からの留学生が非常に多く、特にCommerceのコースが多い。大学最大の魅力は、オーストラリア最大の総合大学として、非常に多くのコースと授業を提供していること。学部留学ではかなり広い幅で授業を選ぶことができ、日本の大学にはないような授業も履修できる。もう一つの魅力としてはメルボルン都心のすぐ北に立地するため、足を運びやすくメルボルンという街の魅力を十分に楽しめる。若者の集まるバー・レストラン街、広い公園、静かなイギリス風の庭園などリフレッシュする場所がたくさんある。

留学した動機

日本とは違う土地で学問を学びたかった。新しい視点を持つことができ、どのようなキャリアであれ今後に活かされるのではないかと思った。メルボルン大学を選んだのは英語圏であること、移民国家で多様な人がいる環境に身をおき日本にはない社会があると思い刺激になると思ったこと、そして街の住環境が優れていると話に聞いたため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部4	年生の	S1	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	7月~	2018年	6月	
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2018年	学部4	年生の	7月頃に	行った
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			70	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			8	単位
	留学後の取得(予定)単位			6	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2014年	4月入学	2019年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

大学3年生の時に留学をしなかったが、学部在籍中に留学を経験したかったため、4年での留学を申し込んだ。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

入学前に履修したい授業のリストを提出して履修登録するが、授業開始2週目までなら履修の変更可能。最初の授業の履修登録変更はメールでは基本的に無視されるのでStop1というところへ直接出向いた方が早い。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

全てオンライン。所要時間 1時間程度。GTEは、メルボルン大学を留学する理由と、1年以内に日本に必ず帰国するといった趣旨で300words程度書いた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

OSHCというオーストラリアの健康保険に加入必須。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

帰国後に卒論、ゼミの履修継続を行うための書類を4月ごろに提出した。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

特になし。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

国際運転免許証:オーストラリアとニュージーランドで運転可能。交通ルールは日本と全く同じであるため困らない。Kindle等電子書籍:時々日本の本読みたくなることがある。Transferwiseによる送金:親からの仕送りだとこれが一番安い。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Power, ideology, inequality	12.5	●	Advanced Script writing	12.5	
Religion, politics and Society	12.5	●	Writing short fiction	12.5	
Wine in the World	12.5	●			
Writing Journalism	12.5	●			
Script writing	12.5				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

留学前に計画していた文化人類学、社会学の授業に加え、当初計画していなかった映画脚本の授業、ワインテイスティングの授業など東大では学べないような授業も履修した。Artsのコースの授業は基本的に一週間あたりレクチャー1.5時間、ディスカッション1時間となっている。ディスカッション前には論文の予習必須。時間がなくてもあらかじめ目を通しておかないといけない。Artsの授業の評価はほとんどがエッセイであるため、復習はエッセイ執筆の際に行っていた。論文をかなり読み込まされ(一つの授業あたり論文や本の抜粋を3から5程度読んだ)、社会の現象に対して、理論でどのように説明するのか、どこが説明できないのかについて繰り返し考える機会を与えられた。最も印象に残っている授業はワインテイスティングの授業で、農場に一週間とじこもってワインの製造方法やテイスティングについてスティックに学んだ。日本では味わえない貴重な経験であった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期当たり4つの授業を履修した。授業はレクチャー1.5時間、ディスカッション1時間であるが、予習として一つの授業当たり6時間~はかけていた。1学期4コマは普段は余裕があるが、学期末の最終エッセイ提出時には相当な重負担となる。4コマのうち、軽めの授業を入れるなど全体のバランスを見て履修する必要がある。

④学習・研究面でのアドバイス

やはりディスカッションで苦戦するため、あらかじめ資料を読み込んで、どんな発言をするか準備していた。エッセイは文法の間違いなどをネイティブの友人に頼んで訂正してもらっていた。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

エッセイの内容が英語の問題などで自分が期待しているより伝わっていないことがわかったため、ネイティブの友人に提出前に確認してもらうようにしていた。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学の寮の値段が高かったため、Flatmate.com.auというウェブサイトを使って、フラットシェア先を探した。大学の寮が月12万~する一方、フラットシェアだと5万円程度ですんだ。そのほかにもメルボルン大学生間でルームシェアの情報交換を行うfacebookページも存在していたため、それを利用している人もいた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

メルボルンの生活環境については申し分ない。真夏は暑い(35~40度)が、冬は東京より2~3度暖かく、晴れの日も多いため大変快適に暮らせた。治安は相当良く、夜出歩いても問題ない。市内には綺麗な公園、広場、庭園も多く、居心地がよかった。大学周辺はアジア料理(中華、和食、韓国、東南アジア、インドなど)、ピザ、イタリアンなど食べるところも多くあり、大きなスーパーマーケットも存在したため便利であった。都心にも近いためバーなど飲むところにも困らなかった。カフェの街として知られているだけあり、街のいたるところに個人経営の小さなカフェがあり、大学構内にも10以上のカフェがあった。店ごとに味が違うので色々試してみると面白い。お金については現地で銀行口座を作り、日本からTransferwiseで送金してもらっていた。基本的には現地銀行でデビットカードを作り、デビット決済で済ませていた。現金はあまり使わなかった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

街の治安は大変良い。しかし大学構内(図書館など)で盗難事件が多発しているため、荷物を置いたまま場所を離れることは厳禁。医療機関は利用していないためわからない。健康管理については大学に巨大なジムがあったため、頻りに利用して体力をつけていた。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

家賃(5万)、食費(6万)、授業のための費用[資料コピー代、文房具など](4千円) ジム(4千円)、交通費(2千円)、娯楽(2~3万程度)

・留学に要した費用総額とその内訳

280万 = 毎月14万*11ヶ月 + 教科書(2万) + 飛行機 (往復12万) + 保険(16万) + ビザ(1万) + 旅行(40万) + 東大に収める学費(55万)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

月5万(JASSO)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

学期中: 息抜きに趣味のジャズを、街に出て演奏していた。ジムで体を鍛えていた。日本語のチューターを4ヶ月程度行い月1万6千円程度稼いでいた。週末は街に出て散歩、写真など。長期休暇中: 西オーストラリア、ニュージーランド、インドネシア、アメリカを旅行。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

アカデミックサポート(エッセイの書き方など)があるらしいが常に満員で受けられなかった。相当早めに予約しなければいけないのだと思う。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館が7a.m.~1a.m.まで利用可能で、大変ありがたかった。試験前は24時間オープンとなるため使い勝手がよかった。図書館内部の空間も居心地が良いように設計されており、学習が捗った。ジムも6時~22時まで空いているため、大変使い勝手がよかった。マシンも豊富でプールも利用できた。そのほか、申請すればスカッシュ、テニス、サッカー、バスケのコートが利用できた。食堂はなかったが、大学内部にレストラン、カフェが多数あり、一食700円くらいで食べられた。カフェはキャンパス内いたるところに点在していた。PCは図書館内部に多数置いてある。使い勝手はよかった。

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

学部4年の6月末に帰国したため、受けられる企業(主に大企業)は多くはなかった。(7月以降にも採用をしていたのは外資系企業、一部メーカー、総合商社、都市銀行、マスコミ)などがあつた。私自身はマスコミに興味があつたため、帰国後に夏採用に応募し採用された。面接では留学経験について(何をしたのか。何を感じたのか。何を学んだのか)を主に質問され、その経験が評価されたように感じた。イギリスやカナダの留学が4、5月に終わるため6月の採用に間に合うのに対して、オーストラリアは帰国が遅いため、オーストラリアにいる間に興味のある業界についてネットや人脈を使ってある程度調べておく必要があると思う。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

(シドニー、ボストン、東京サマー)キャリアフォーラムに参加して面接の練習をしておく、帰国後の本選考で焦らずに済むと思う。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| <input checked="" type="checkbox"/> | 5. 民間企業(企業名又は業界: 新聞社) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

学びについて:1日本の大学と異なり、履修できる教科が少なく、一つの教科に対して集中して取り組む機会を得ることができた。また理論がどこまで妥当か、現実にあてはまるのかについてレポート・ディスカッションにて繰り返し考える機会が与えられるため、批判的視点や論理的な説明をする力が身についた。2 オーストラリア特有の労働問題や移民問題を学んだこと、オーストラリア人の友人の生き方・価値観に触れたことを通じて、多様な社会の「可能性」に対する想像力は養われたと思うし、この想像力はこれからも大切にしていこうと思った。海外の情報に常に得ること、キャッチアップすることの重要性が理解できた。 学部交換留学の意義:日本で持っているコミュニティやしがらみ、アイデンティティから離れられるため、新しいことに挑戦したり、時間を使って何かに集中する機会を得られるということ。違う国に住み、文化に触れ、学ぶということが純粋に楽しい。という点で価値ある経験だと思う。

②留学後の予定

学部を卒業。留学を通じて学んだ「それ以外の可能性」という視点を忘れずに、世の中の出来事を伝えていく新聞記者として最初のキャリアをスタートさせる。英語を生かして、特派員や海外でのキャリアも目指す。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

学部で交換留学をすることは、将来やりたいことへの最短ルートであるとは思いません。むしろ遠回りであるかもしれません。私の知人で交換留学しなければよかったと後悔している人を何人か知っています。私は交換留学の最大の魅力は日本でもっているアイデンティティやコミュニティ、しがらみみたいなものから一旦離れて、何か新しいものと向き合い、それに集中する時間を確保できるということにあると思っています。今まで学んだことのないようなことや、新しい環境を楽しめる人、そして大学生生活少し遠回りしてもいいかなと思える人なら、きっとその留学に価値はあるんじゃないかなと思います。私は交換留学してよかったなと心から思っています。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

日経デジタル。NHKニュースweb 日本で起きていることのキャッチアップをしていた。

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。